

# 智頭町「日本1/0村おこし運動」から始まった

ゼロ分のイチ

## 各地区振興協議会の今

本町が平成9年度に制度化した、「日本1/0村おこし運動」は、町の活性化は集落の活性化からという視点に立ち考えられた取り組みです。

自分に何ができるか、何に汗が流せるか、住民一人ひとりがゼロ（無）からイチ（有）への一歩を踏み出そうと始められたこの運動によって、多くの集落から「宝」が発掘されました。

現在、山形、那岐、土師、富沢、山郷の5地区が振興協議会を立ち上げ、テナントの誘致や宿泊設備の整備など、それぞれが自立した運営を目指して活動しています。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、昨年度の活動報告会が開催されていません。そこで、各地区振興協議会の近況の一部を皆さんに紹介します。

### 山形地区振興協議会

#### 林業を活かして活動

昨年度は、森のミニデイ等の福祉活動や林業資料が視聴できるように林業展示資料室の拡充などを行いました。

また、鳥取県指定「智頭林業有形民俗文化財」となり、170あまりの資料のうち一部の林業道具が、令和元年秋に、「やまびこ館」と「倉吉博物館」で展示されました。



▲拡充された資料室。映像資料が閲覧できるようになりました。

### 山郷地区振興協議会

#### 地域貢献、宿泊設備整備

山郷初の試みとして、集落内のカーブミラー清掃を行い地域に貢献しました。

また、ゲストルームとして整備したセミナールーム「若杉」の営業がスタート。

一般社団法人として自立できるよう、今後も様々な活動に取り組んでいきます。



▲セミナールーム「若杉」